

# 「水口ばやし」の稽古 継続



水口曳山まつりに欠かせないおはやしの稽古に励む子どもたち＝甲賀市水口町で

毎年四月二十日にあり、甲賀市水口町の春を彩る県無形民俗文化財「水口曳山まつり」の曳山巡行が、新型コロナウイルス禍で二年連続の中止を余儀なくされた。住民のまつり離れが進み、伝統の継承が難しくなるなどの危機感が関係者に広がる中、参加する町の中には巡行に欠かせないおはやしの稽古を例年のように続ける所もある。

「曳山まつり」巡行2年連続中止

伝統を子どもにも

(島村 隆)

「タン、タ、タン、タ、タン」。小気味よい太鼓の音が夜の集会場に響く。田町、片町、作坂町、松原町の四町合同の「水口ばやし」の稽古が三月末にあり、園児から大人まで二十五人が集まった。子どもが春休みに入った三月後半から始め、週二回一月月間続ける。指導する村田正さん(58)は「まつりのためだけでなく、伝統芸能を継承するため」と説明する。少子化で祭りの担い手が減り、かつては四町ごとだった稽古が合同になった。二年連続の中止を重く受け止め、子どもをつなぎ留める方法を仲間と模索してきた。

大人は専用のフェースガードを着けて横笛を吹き、

橋を改修する予定。同社グループは漁業も手掛け、奥井敦由代表(2)は近江八幡漁協組合長を務めている。「沖島は身近な存在で、出身の同級生や友人

## 沖島の散策橋改修協力

近江八幡 自治会、奥井総建に感謝状

琵琶湖に浮かぶ沖島(近江八幡市沖島町)の散策道にある橋の二〇二〇年度改修工事が終わり、無償で協力した奥井総建(同市島町)に、沖島町自治会から感謝状が贈られた。

沖島小学校から弁財天までの散策道には、自治会が整備した橋が八本ある。設置から十五年以上が経過して老朽化が目立つため、一九九年度から市里山整備事業で改修を進めている。事業は三年計画で、林道



2020年度の改修工事が終わった橋の上で、森田自治会長(左から3人目)から感謝状を受け取った奥井代表(向4人目)＝近江八幡市沖島町で

や散策道の再整備のほか、看板設置や草刈りなどを実施。散策道の再整備では八本の橋のうち、一九九年度は二本、二〇二〇年度は弁財天近くの橋(長さ十六メートル、幅一・二メートル)をそれぞれ改修した。建設用の足場をベーンに鉄板を敷き、その上に防腐加工した杉板を据えた。

市の補助金で資材を購入し、工事はいずれも奥井総建が無償で担当。二二年度は老朽化が進むもう一本の

## エコパーク交流施設 完成

守山 温水プールや温浴備える

守山市のこみ処理施設の更新に伴い、温水プールや温浴施設などを備えた「もりやまエコパーク交流拠点施設」が、市北部に完成した。鉄骨平屋約二千八百平方メートルで「健康・環境・交流」の活動拠点とする。二日に報道機関向けの内覧会があった。

温水プールは二十五メートルコースで、水深四十五センチのキッズプールもある。温浴施設の定員は男女各二十人。新こみ処理施設が稼働する十月以降は、こみ焼却で発生する熱を利用する。

トレーニングエリア、交流・学習コーナー、工作・環境学習室、キッチンも整備した。フットサルやバレーボールなどができる多目的ホールは、既設の農村環境改善センターのホールを改修。市「み減量推進課と環境政策課が、本庁舎から交流拠点施設へ移転した。



日コースある温水プール。手前はキッズプール＝守山市で

総事業費は約二十億円。九十七台分の駐車場を含む敷地面積は約一・七ヘクタ。二〇二二年度はグラウンドゴルフ場を整備する。

市民向け内覧会は、四、六、七、八の各日午前十時～午後六時。予約不要。開所式は十日にあり、アテネ五輪女子八百メートル自由形メダリストの柴田亜衣さんを招き、市内小中学生対象の